

第6回射水市総合計画審議会 会議録

○日 時 令和5年5月17日(水) 午後7時～8時40分

○場 所 射水市役所本庁舎3階302～304会議室

○出席者

(委員)

明石あおい、飯山進、岩口久梨果、上田秀永、牛塚松男、大西宏治、尾山春枝、加治幸大、門田晋、古池清一、笹川征一、鈴木真由美、高市洋介、塚本清、津田奈由子、釣谷隆行、野澤寛、長谷川雅美、樋上正之、牧田和樹(リモート)、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人、森由佳子、山口康志、亘建邦

※欠席委員

朝倉あゆみ、大坪清治、川原辰弥、中尾公一、二川由利子

(当局)

磯部副市長、桜川議会事務局長、小塚企画管理部長、北財務管理部長、長谷川市民生活部長、小見福祉保健部長、塩谷産業経済部長、小川都市整備部長、南上下水道部長、渡邊会計管理者、久々江教育委員会事務局長、片口監査委員事務局長、竹内消防長、宮本市民病院事務局長、杉本企画管理部次長、坂井財政課長、網政策推進課長

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 第3次射水市総合計画前期実施計画について

政策推進課
長

※資料1、2に基づき説明

委員A

7頁の「部活動の地域移行推進事業」について、以前、令和5年度に6つの競技の実証を行うとの説明を受けたが、令和5年度の予算の内容について伺う。また、このことに関する数値目標はないのか。

8頁のコミュニティ・スクール導入事業の経費が26,328千円と大きい、その内容について伺う。また、30頁に記載のある16番の数値目標「コミュニティ・スクールの設置数」について、令和9年度までにコミュニティ・スクールを21校にする目標としているが、一度にコミュニティ・スクールを立ち上げるのか、年度ごとに増やしていくのか。

13頁の「企業誘致推進事業」について、31頁の35番に「企業団地分譲率」を令和9年度に100パーセントにする数値目標が掲げられている。企業が進出する余地を持っておくことは大事であることから、新たな企業用地の確保にも取り組んでいただくことを要望する。

32頁の57番の「地区防災計画策定数」の目標値を「6地域振興会」での策定としているが、これは少ないのではないかと心配している。一朝一夕にできないことではあるが、全地域に行き届かないのではないかと心配している。

33頁の75番の数値目標の「認知症サポーター養成者累計人数」については、数も大事だが、養成講座の修了者の皆さんがその後、どのように活動に関わるか、つなげていくことが重要だと考える。

最後に34頁の95番の数値目標「地域型市民協働事業数」については、事業数を

	<p>増やす目標になっているが、市民協働事業を根本から見直し、現状の36件のあり方をスクラップアンドビルドするという観点も重要ではないか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>部活動の地域移行の令和5年度予算については、講師謝金と子どもたちや指導者の保険料を計上している。</p> <p>令和4年度の9月から試験的に剣道、柔道、バスケットボールの3競技で地域移行を実施している。今年度の9月からは、新たに卓球、ハンドボール、ソフトテニスの3競技を追加して試行する予定であり、これらの競技に係る経費である。</p> <p>このことについては、国が打ち出した令和5年度から令和7年度までの3年間で休日の部活動の地域移行を進めるという方向性に基づき、市としてもその3年間で地域移行を進めることとしているところであり、特に数値目標として設定はしていない。</p> <p>コミュニティ・スクールの導入に係る経費については、システムの構築や運営費を計上している。今年度、コミュニティ・スクール導入の専任職員を配置しており、その職員が地域振興会や各種団体に対して説明をさせていただく。特に教員やPTAには、やらされるのではなく、自ら取り組むという正しい理解をしていただきたいと考えている。</p> <p>令和6年度には全21校中の半数、令和7年度にはすべての学校にコミュニティ・スクールの導入し、地域活動協働本部を設置しながら進めていくこととしている。</p>
産業経済部長	<p>企業団地の分譲については、令和5年4月から沖塚原企業団地の分譲を開始し、企業誘致に努めている。誘致が順調に進めば新たな企業団地の造成に向けた検討を行いたい。</p>
財務管理部長	<p>地区防災計画の策定は昨年度から開始した日の浅い取組であるほか、地域振興会の意向も踏まえながら取り組む必要があることから、1年間に1地区という慎重な目標設定としたが、目標値にこだわらず意欲的に進めていきたい。</p>
委員A	<p>我々地域振興会も前向きに取り組んでいきたい。ご指導をよろしく願います。</p>
福祉保健部長	<p>認知症サポーター養成者の累計人数については、今後の高齢者の増加に伴って認知症高齢者も増加することを見込み年間1,000人の養成を目標としている。講座修了者を対象に毎年ステップアップ講座を開催し、その中から地域の中で支える「認知症ささえ隊メイト」を作り、認知症の家族や当事者を対象に行っている「なごもっと」や「認知症カフェ」という活動とのマッチングを行っている。</p> <p>これらの取組は、20頁の「認知症対策推進事業」の「認知症地域支援・ケア向上事業」にその詳細を含んでいる。</p>
委員A	<p>地域との連携が重要であり、我々自身も地域で頑張っていないといけない。よろしく願います。</p>
市民生活部長	<p>地域型市民協働事業は、従前は市が実施していた事業を、地域の実情に応じてより身近な地域の方が実施するものである。実施に当たっては地域振興会の皆さんの意見を伺いながら進めており、これまでに廃止した事業もあれば、新たに取り組んでいただいている事業もある。今後も地域の皆さんとコミュニケーションを取り、地域の実情を踏まえてよりよい協働事業となるよう見直しを行うとともに、参画意識の醸成を図り、事業数も増やしていきたいと考えている。</p>
委員A	<p>地域の声の反映という点を大事にいただければと思う。</p> <p>資料の構成についてだが、実施計画事業と数値目標を一体的に見られるような構成にできないか。市民がわかりやすく、読みやすくなるようご検討いただきたい。</p>
委員B	<p>実施計画は総合計画の結果を出すための事業計画であり、5年間でどのくらいの定住人口を目指すか、それぞれの事業がそれにどれくらい寄与するのか、というイメージを持っておくべきだと思う。</p> <p>また、市民アンケートを行うということだが、年齢構成が高齢者に偏るアンケートではなく、戦略的にライフステージごとに統計処理する必要があるように思う。</p>
企画管理部	<p>「ムズムズ人口」も「定住人口」も前期5年間における目標設定はしていない。</p>

<p>長</p>	<p>基本構想の計画期間 10 年間に於いて目指すところでは、「ムズムズ人口」は 132 万人、「定住人口」は現状 9 万人強の人口を 8 万 6 千人にキープし、人口減少を最小限に留めたいという考え方である。前期実施計画期間で考えると、定住人口においては 8 万 8 千人から 8 万 9 千人が目標となるのではないかと思う。</p> <p>「ムズムズ人口」に関しては、昨年度末に富山県が関係人口のアンケートに基づく推計値を示しており、仮に同様の推計を射水市で行ったとすれば、射水市が目指すべき関係人口については、132 万人から 135 万人という目標設定が可能であろうと考えている。</p> <p>今回お示した事務事業それぞれがどのくらいの効果があるのか、というご指摘かと思うが、総力を結集した結果として 10 年後の定住人口 8 万 6 千人、ムズムズ人口 132 万人を目指したいという思いである。</p> <p>市民アンケートについては、ご指摘いただいたように、ライフステージごとの評価ができるような内容とするよう検討する。</p>
<p>委員 B</p>	<p>総力を結集することは大事だが、本当は個々の取組によって何がどれくらい改善するのか、K P I の先に何があるのかを意識することが重要だと思っている。そこに今後も力を注いでいただければと思う。</p>
<p>委員 C</p>	<p>この前期実施計画は市民の目に触れるのか。</p> <p>また、各事業の計画額が記載されており、新規事業には下線が引いてあるが、この予算が今までとどう変わるのかがわからないため、これまでも取り組んできたことを引き続き同じようにやっていくのか、拡充していくのか、増減を見えるようにできないか。</p> <p>また、国や県の支出金などの財源の記載があるが、市単独の予算だけでも取り組むという姿勢なのか、全国的にトレンドだからやらなければいけない事業なのか、という面もわかりづらいと感じた。</p>
<p>企画管理部 長</p>	<p>この計画は市民の皆さんの目に触れるのかという点については、成案として取りまとめた後に公表することとしている。</p> <p>2 点目については、事業ごとの予算の比較というのは困難であり、どのように表現すればよいかについては検討し整理したい。</p> <p>3 点目について、財源内訳を個別の事業ごとに区分は記載していないが、基本目標である章ごとに財源内訳を示すという形で表現している</p>
<p>委員 C</p>	<p>市民としては個別具体の事業が気になる。それらがわかることによって射水市がどこに力を入れているのかを感じたいと思う。資料をそれがわかるように表現するのはとても難しいことだというのはよくわかる。</p>
<p>会 長</p>	<p>鈴木副会長からご発言いただきたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>本日配布された総合計画の冊子が非常に見やすい。また、表紙が将来像をうまく表現していてとても良い。</p> <p>アンケートについては市民の声を聞く直接的な方法であり、若い方々や国際的な方々の声も聞きながら評価に盛り込んでいただければと思う。</p> <p>高等教育機関との連携事業については、小中高大の連携という観点もあればよいと感じた。</p> <p>計画通りに取り組めない事項や、計画していなかった事業に取り組む必要が生じることもあると思う。結果としてそれが各章に掲げる「施策の成果」に反映され、それがアンケートで市民の声として戻ってくるという形になればよいと期待している。</p>
<p>会 長</p>	<p>基本計画をもとにして実施計画が組み立てられている。今後の状況に応じて柔軟に取り組む内容が変わっていくことも踏まえて、我々としても計画の進捗を見守りたいと思う。</p>
<p>副市長</p>	<p>今回が第 6 回の審議会であり、最後の開催となるが、各委員におかれてはこれで終わりではなく、ご意見番として様々な形で本市の行政に関わっていただけるよう</p>

お願い申し上げます。

総合計画の冊子については、将来像を表現した色調やデザインとなっている。デザイナーであるワールドリー・デザインさんや、写真をご提供いただいたイナガキヤストさんに感謝申し上げます。

実施計画にはいろいろな事業を盛り込みたいと考えているが、例えば子育て支援の面においては、子育て世帯への経済的支援策が各自治体において競争的に取り組まれている中で、我々の財政状況を踏まえて現実的な施策を落とし込んでいる。

冒頭に担当からも申し上げたが、国県の施策の変化に柔軟に対応していく必要がある。子育て施策の面では「異次元の少子化対策」という方針のもと、どのように国が打ち出すかわからないが、しっかりと取り込んでいくつもりである。

一方で、総合計画を支えるために、「行財政改革集中改革プラン」というものがあるが、これを総合計画の計画期間と合わせて、今年9月議会に向けて計画期間を前倒しして策定することとしている。質と量の両方から改革を進めるものであり、デジタル技術の活用や公民連携にしっかりと取り組みながら市民生活の満足度向上につなげたい。

C委員からもう少し前後の比較ができないかというご指摘があった。毎年9月議会の決算委員会に「主要施策の成果報告書」という事業ごとの前年度との比較をした資料を示しているが、この資料のようにすべての事業を掲載すると300頁近いボリュームになるため、今回の実施計画の資料内での表現は難しい面があるということについてご理解いただき、金額の増減の比較は決算資料でご確認いただいてご意見を頂ける場面もあろうかと思う。

最後に改めて委員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

4 閉会

以上